

**【1】 一種研開催報告**

一種研が7月27日-29日の3日間、旭川市大雪クリスタルホールを現地会場とするハイブリッド方式で開催されました。今回は、宇宙・航行エレクトロニクス研究会 (SANE)、衛星通信研究会 (SAT) と併催であり、A・P研オーガナイズドセッション9件、A・P/SANE/SAT研 合同セッション6件、SAT研特別講演、SANE研特別講演、A・P研チュートリアル講演、IEEE AP-S Tokyo Chapter特別講演を含め41件の講演がありました。

IEEE AP-S Tokyo Chapter特別講演では、「アンテナ研究30年を振り返って」と題して、防衛大学の森下先生の研究経歴を紹介いただきました。防衛大卒業直後は航空機操縦士を目指していたことから始まり、1992年からの円偏波アンテナの研究、現在も続いている折り返しダイポールアンテナの研究の変遷、さらにはヘルメットアンテナ、トポロジー最適化を応用した設計など、バラエティーに富んだ研究歴をお話をいただきました。

A・P研チュートリアル講演では、富士通の山ヶ城尚志氏より、端末アンテナ設計技術について解説いただきました。限られた空間内に複数周波数で動作するアンテナを効率よく設計することを目的として、端末用のモノポールアンテナやマルチバンドアンテナの設計事例を紹介いただきました。最近はやりの機械学習などに頼るのではなく、整合回路の動作原理をうまく利用したシステムティックな設計手法であり、大変興味深い内容でした。

コロナ感染が急激に増加している状況ですが、たくさんの方に現地参加いただきました。

【2】 第一種研究会 2023年度開催計画

6月16日の専門委員会で承認された2023年度の一種研の開催計画を表1に示します。9月の伊勢は、過去2回開催予定してましたが、コロナ感染拡大を受けて2回とも現地開催できなかったことを受けてのリベンジ開催です。その他、例年通り地域バランスを考慮した計画となっていますので、皆様の参加計画にお役立てください。なお、諸般の状況により変更となる場合があることをご了承ください。

【3】プログラム編成委員会報告

2022年電子情報通信学会ソサイエティ大会が9月6日(火)～9日(金)に開催されます。それに先立ち、去る7月8日にプログラム編成会議をハイブリッド方式で行いました。



写真1 現地会場の様子

(また、だれかピースしてる)



写真2 講師とChair,委員長

(左から、石井 Chair,森下先生,山ヶ城さん,山田委員長)

表1 一種研 2023 年度開催計画

開催日	予定件数	開催場所(支部)	テーマ	併催	IEEE AP-S 共催 Chapter等
4/13, 14	10	大阪 (関西)	一般		kansai
5/18, 19	20	沖縄 (九州)	一般		Fukuoka
6/15	10	機械振興会館 (東京)	一般		Tokyo
7/26, 27, 28	20	札幌 (北海道)	一般, 電波伝搬, リモートセンシング, 衛星通信	SANE研, SAT研	Tokyo URSI-F
8/17, 18	25	東京 (東京)	一般		Tokyo
9/14, 15	20	伊勢 (東海)	一般, マイクロ波・ミリ波	MW研	Nagoya
10/19, 20	20	岩手 (東北)	学生, 一般		Tokyo
11/15, 16, 17	20	熊本 (九州)	一般, 無線通信	RCS研	Fukuoka
12/14	10	機械振興会館 (東京)	一般		Tokyo
1/18, 19	20	新潟 (信越)	一般, 電力伝送, 電波伝搬	WPT研	Tokyo URSI-F
2/15, 16	15	香川 (四国)	一般, 企業特集		kansai
3/14, 15	15	福井 (北陸)	一般		Nagoya

A・P研関係の投稿件数は合計145件でした。たくさんの投稿をいただき、ありがとうございました。プログラム編成の結果、B-1A: 6セッション(31件)、B-1B: 10セッション(47件)、B-1C: 9セッション(39件)、BCS-1: 3セッション(10件)、英語セッション: 3セッション(13件)、シニア若手セッション: 1セッション(5件)となりました。

今回のプログラム編成作業もハイブリッド方式で実施しました。プログラム編成委員の方々のご足労に感謝申し上げます。ソサイエティ大会そのものは完全オンラインで実施されます。皆様、積極的に参加いただき、活発なご議論をよろしくお願いいたします。

【4】学生-企業交流イベント案内

10月に研究会@岐阜市文化センターで学生と企業との交流イベントを開催します。学生にとっては企業の情報が得られ、また企業にとっては学生と接する良い機会です。また、発表はポスター形式ですので個別のディスカッションが可能です。詳細はA・P研ホームページをご覧ください。申込〆切が8/10と迫っていますので、発表を検討の方はお急ぎください。



図1 学生と企業の交流

【5】副委員長の戯言

◆久しぶりに北海道に行ってきました。

7月A・P研に参加するために、北海道旭川市に行ってきました。関東の方々は飛行機で直接旭川空港に移動される方が多かったのですが、福井から旭川への直行便はありません。選択肢は、A:飛行機で小松-羽田-旭川か、もしくは、B:小松-新千歳-JRで旭川へ、の2択です。結局、乗り継ぎを含めたトータルの時間を考えて、Bプランの新千歳からJRで移動を選択しました。日本の交通網は、ほとんど東京を中心に整備されており、地方都市から地方都市へ移動するのは結構大変です。同じように感じている地方都市在住の方も多いのではないのでしょうか。

◆090はおじさん？

先日、私用である30代の方と電話番号を交換する機会があり、私の携帯番号「090-6582-4***」を伝えたところ、「おお、090、さすがおっさん」という反応がありました。んん？、と思ったのですが、確かに、携帯番号は最初090から使われ始め、時代とともに080、070も使われ始めました(当初は070はPHSでした。そのあたりはキャリアさんが詳しいでしょうか、ここでは大目に見てください)。ですので、番号が090から始まる人は年配の方が多く、先述の反応になるのだそうです。

このことを学生に話したら、学生はそんなイメージは持っていないそうです。なぜなら、最近の若い人はLINEのQR交換のみで、親しい友人でも電話番号を知らないことも珍しくないそうです。コミュニケーションには電話を利用せず、連絡はほぼSNSという人にとってはMNP(ナンバーポータビリティ)は無縁ですね。

◆前回のクイズの続きです。

前回のクイズで、「6+6=9」で「0+0=3」。さらに、「0-0=-∞」です。では、「6-6」はいくつになるのでしょうかの答えの欄に、「単位をdBmにすれば分かります」と書いていました。するとある方から「dBmではなくて、単にdBでもええんちゃうの？」とコメントいただきました。確かにdBでも計算は成り立ちます。しかし、dBだと単なる数値の計算なので、無線屋さんとして、0dBmが1mWみたいな感覚を持ってほしくてdBmにしました。さらにその方と議論が広がり、dBは単なる比であるから比と比を足したり引いたりするのはあまり意味がないがdBmは電力という物理量なので足したり引いたりしてもおかしくないという話になりました。ただし、パワーデバイダ(コンバイナ)でdBm(電力)を足す(合成する)場合、2つの信号がコヒーレントかインコヒーレントなのかによって実は答えが変わります。こんな答えが一意でない問題は、入試で使えませんね。失礼しました。

〈問い合わせ先〉

アンテナ・伝播研究専門委員会副委員長 藤元美俊(福井大学)

E-mail: ap_ac-chair@mail.ieice.org (A・P研執行部のメールアドレス)

AP-NET: A・P研の最新情報を毎月メールにてお届けします!! 登録はA・P研HPIにて

A・P研HP: <https://www.ieice.org/cs/ap/>

